

第6章

木育運動推進のための資源

第1節 | 木育用教材の開発

1.1 はじめに

森林化社会を目指した運動や森林親和運動において、それを進めるための資源が必要となる。一般的には、ヒト、モノ、カネ、ネットワークがそれにあたる。北尾は「森林化社会」の提言はしたものの、それを推進するための担い手、方法については言及していない [北尾 1989]。林野庁も木育の理念は示したが、その具体策は持ち合わせていなかった。本章においては、木育運動を推進するための資源として「木育用教材」と「製作題材」、「カリキュラム」について説明する。

木育は誕生して間もない活動であるため、学校教育および社会教育、一般社会において木育に関する意義の理解と実践は十分とは言えない。さらに、木育を広めるための教材・テキストは散見するところ、^い活木^い活木^き森ネットワークが開発した「木育推進パック」および、北海道・木育プログラム等検討会議作成の「木育達人入門」のみであった。さらに、両テキストとも、木育の理念に基づき作成されているため基本的な教材としてはよいが、「木とヒト・クラシとの関係性」や「木の魅力・木の不思議」を十分伝える教材とはなっていない。さらに、森林を取り巻く環境は日本国内においても地域ごとに違いが多くそれぞれの地域に対応した教材や、対象者（児童、生徒、成

人)に応じたテキストの開発が望まれる。本節では、木育用の教材『木を活かす・森を育てる』の開発について紹介する。

1.2 開発の手順

今回開発した木育用教材(以下、テキストと記す)の開発の手順は、まず、木育に関連する項目を取り上げ整理した。具体的には、林野庁の挙げる木育の理念、2012年度から全面実施の技術・家庭科の学習指導要領、さらには、徳野の生活農業論[徳野 2007, 2011]をもとに、「ヒト・クラシ」からの視点を取り上げた。次に、テキストに掲載する内容について原案を作成し、熊本県農林水産部林業振興課と協議し構想案を作成した。その構想案に沿って、具体的な内容について検討し、より詳しい内容のリストを作成した。次に、実際に内容や図、写真の配置の構想など、テキストの原案の作成を行った。作成した原案を基に、同林業振興課と協議・検討を繰り返し、木育に関するテキストが完成した。検討段階では、実際に学校教育に携わる教員にも意見を求めるなど、より児童・生徒の実態に応じたテキストの作成に努めた。また、ものづくりの素材としての木材、持続可能な社会の構築の観点から計画的な森林資源の育成と利用¹、我が国の文化や伝統、材料の再資源化、関連した職業についての理解などについても掲載することとした。

1.3 掲載内容と活用法

テキストは表6.1に示すように、①森林について、②木材利用について、③森林・木材に関する行政の取組みの3つの内容と8つの項目から構成されている。

「持続可能な社会の構築の観点から計画的な森林資源の育成と利用等の技術の必要性に気づかせる」ことを目的に、①において森林の役割について知らせる。また、「森林と社会や環境とのかかわりについて理解を深める」観

1 「持続可能な社会の構築」については、環境省、2005、『京都議定書目標達成計画』を参照。

表 6.1 木育用教材の構成

主な内容	項目	頁数
①森林について	1. 熊本の森林 2. 森林のはたらき	p.1 p.2・3
②木材利用について	3. 木材は循環資源 4. 木材の特性 5. 木材の特性を活かしたものづくり 6. 熊本の木造建築 7. 熊本の伝統工芸	p.4・5 p.6・7 p.8・9 p.10・11 p.12
③森林・木材に関する行政の取組み	8. 熊本県の取組み	p.13

点から、②において木材の利用と環境保全の関係を理解させ、さらに、③の行政などの取組みに関して知らせることで、自らが主体的に環境保全に参画する態度を育成する。

また、「我が国の木に関する文化や伝統」を理解させる目的から、②③において木造建築物や伝統工芸の身近な例や関連する授業を提供する高等学校を示し、伝統と文化について興味・関心を高めさせる。以下に、表 6.1 に示した 1 から 8 の各項目の具体的な内容、ねらい、作成上の留意点などを示す。

項目「1. 熊本の森林」、「2. 森林のはたらき」では、熊本県の森林の現状について知ること、森林と環境の関係について理解し、環境に配慮した生活ができるようになることの 2 つをねらいとしている。たとえば、図 6.1 に示すグラフを見て、県土に対する森林の割合や森林の現状を知ること、熊本県の森林に対して興味・関心を持つことが期待できる。また、図 6.2 の地下水に関する資料などを用いた学習を通して、森林と水の関係や二酸化炭素吸収、炭素貯留、山崩れ・洪水を防ぐ、生物多様性などの森林の公益的なはたらきを理解することで、学習者が自らの生活と森林が密接な関係にあることを認識し、自らの生活を見直し、森林保護をはじめとする環境に配慮した生活ができるようになることを考える。あわせて、植林から伐採までの林業の仕事について示すことにより、森林に関わるヒトの理解にもつながると言える。